



周南の島「大津島」コミュニティ紙

2023年11月号

No.294

大津島データ 138世帯
人口 189人 男 79人 女 110人
高齢化率 79.8%
(令和5年8月31日現在)

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん



祝賀会での和田マジックショーは、テレビで見ると生でのショーは感動しました。カラオケタイムでは、途中ピカチュウの出現。回天踊りは、新鮮で迫力があ

文川大津島支所 原田 和保



最後には、恒例のお楽しみ抽選会で大変盛り上がりしました。スタッフ、デイサービスの皆様には、準備から当日までご協力ありがとうございました。大変お疲れさまでした。



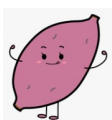
大津島地区敬老会

9月15日(金)、大津島体験交流施設「海の郷」体育館で4年ぶりに敬老の日記念行事が行われました。当日は、敬老者・来賓・スタッフ等総勢約80名の出席がありました。暑い中ではありましたが無事に終了した事にほっとしています。



大津島ポテトマラソン FINAL

2023年12月3日(日)開催します。



ホームページ「周南地域づくり応援サイト」でも、『潮流』をご覧になれます。【大津島 地域づくり 潮流】で検索！

須金・大津島交流会

文川大津島支所 中村 卓広

4年ぶりに須金市民センターにて、須金・大津島交流会が行われました。福田フルーツパークでの梨・ぶどう狩りのあと、須金市民センター多目的ホールにてカラオケを含めた交流会が行われました。



ツアーでしたが、その場で焼き餃子の手作り料理などであたたかいおもてなしを受けました。大津島さくらまつりでも、同様なおもてなしを心がけています。

「交流会をやりませんか」須金地区の民生委員児童委員協議会(民児協)会長さんから熱いラブコールをいただいたのは昨年の事でした。須金との民児協交流会は桜祭りや梨ぶどう狩りと共に、以前は毎年行われていたそうなのです。とはいえ、コロナの事もあり、その年は開催が出来なかったのですが、5類になってすべに「これでやっとできますね」と須金の会長さんから連絡をいただきました。本当に有難いことです。

そして今年令和5年8月6日、須金と大津島の民児協交流会が、大津島海の郷で開催されました。参加者は須金7名、大津島8名。2地区は日ごろ交流のある中で、馴染みのある顔もあり、和やかな雰囲気の中で会議が進められました。お互いの地区の説明の後、須金では自主防災に力を入れていること、防災だよりを定期的に発行されていること、休校の予定だった学校が存続できたこと、大津島は人口減少、イノシシ問題、面白い話題として現在4人の子さんが誕生したこと等、報告や話し合いがありました。

私個人としては、「須金という住所は無いんですよ」という須金会長の言葉にびっくり。住所は「須万(すま)」か？

「金峰(みたけ)」になるそうです。今度漢字が読めません。地区名では「葭谷(あしたに)」、「長渡路(ながとろ)」、「楽々谷(ささだに)」、「松室(こむろ)」等、素敵だけ読めない名前がたくさん。須金の方々は一つひとつ読み方を教えて下さいました。もう少しゆっくりお話ししたいこともあったのですが何分時間が無く、「秋に須金で会いましょう」と約束して終了となりました。

その後一行は回天見学をされ、原爆投下の日ということもあって平和の鐘を鳴らしてお帰りになりました。あわただしい時間の中、大津島を知ろうという須金の方々の気持ちを感じることができました。大津島も、もっともっと須金を知りたいと思います。

そういえば、須金と大津島の姉妹組協定は今年で32年目になるんだそうです。



(右から) 厚東教育長
古城 美保子、松本 千恵子

もう一つの交流会 須金・大津島地区民児協交流会

文川渡邊 あゆ子

絵本「戦時のアヲハル」贈呈式

大津島で生まれ育った姉妹が、父母から伝え聞いた戦争体験をまとめた絵本「戦時のアヲハル」を図書館および学校に寄贈されました。

文川松本 千恵子

この度の活動の際しましては、本当に沢山の方々に応援して頂き、こうして形になり寄贈する事で多くの方の目に止まる機会を得ることが出来ました。これもひとえにご支援くださった方々、ご自分の膨大な時間を犠牲にして、編集・会計を引き受けてくださったおかげです。心から感謝申し上げます。改めてありがとうございます。



大津島の最新情報は、オフィシャル Face book ページ『のほほん大津島』で紹介しています。https://www.facebook.com/nohohon.odushima/

41 回天記念館や当社事務所への問い合わせ

文川 大津島巡航 三崎 英和

回天記念館や当社の窓口で良くある問い合わせの一つに、「大津島の回天記念館に行きたいんですが、どこまでの切符を買ったらいいのですか」というものがあります。

周南市民の方なら、迷わず馬島港までの乗船券を買われると思いますが、遠方から来られるお客様には「大津島にある回天記念館」との認識があるため、例えば当社事務所前の発券機で、しきりに「大津島」という港を探されるのですが、それが見当たらないために起こる質問です。

発券機にもその横の壁にも（ホームページにも）、「回天記念館は馬島」と書いた貼り紙を張っているのですが、先入観のためにか目に入りにくいみたいです。

それと『「ばしま」の港までは何分かりますか」という質問もよく受けます。

この「ばしま」とは、お気づきのとおり「馬島」のことなのですが、なぜか音読みされる方が結構いらっしゃいます。

あと不思議なのが、「大津島行きのフェリーは何時に出ますか」という質問が結構あることです。そうした問い合わせをされるのは、ほとんどが歩いて回天記念館を訪問される方なので、フェリーでも旅客船でもどちらに乗っても構わないはずなのですが、なぜか「フェリー」と指摘されます。

当社の名称は、「ご承知のとおり「大津島巡航」であり、「大津島フェリー」ではありません。どこかで、「大津島へはフェリーで行ってください」と案内されているのでしょうか。

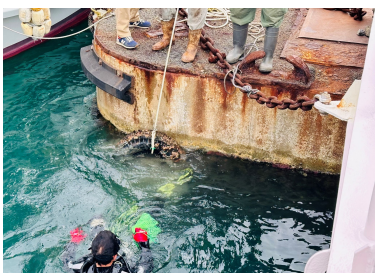


イラスト 三崎さん

若潮の会通信 No.52

10月7日に馬島で恒例の海岸清掃が実施されました。3連休の初日ということもあり、今回は例年の半数程度の参加人数で、若潮の会からは5名が参加しました。馬島の清掃は、ダイバーによる海底清掃も実施します。

例年参加の周南公立大学の屈強なラクビー部員が今回不在だったので、若潮のメンバーがダイバーからの海底ゴミを引き上げる役割となりました。意気込んで待ち構えていましたが、今年は重たい「ゴミ」はほとんど上がらず、腰を痛めることもありませんでした。



当日は、先週末までの猛暑日がウソのように風が冷たく肌寒い一日で、ダイバーの皆さんも大変だったと思います。閉会式でのダイバーの方からの「海底のゴミもほとんどが人工「ゴミ」です。参加の皆さんには周囲の方々にぜひこの現状を伝えていただいて、清掃活動をしないで済む環境づくりをしていきましょう」という言葉に共感し、自分も行動していきます。ご参加の皆さん、お疲れさまでした。

文川 苅田 康志



移動図書館 やまびこ号ジュニア

11月29日（水）、12月15日（金）
馬島11：30～ 刈尾12：20～

【編集後記】

ようやく暑い季節は終わり、秋らしい季節となりました。急に寒くなりましたが、紅葉は味わいたい気分です。 皆さん、体調管理には十分気を付けて下さい。

文責：大津島支所 原田 和保



お知らせ

【次回潮流発行予定日】
1月1日 第295号

【11月～12月の主な島の行事予定】

11月12日（日）回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式
12月 3日（日）大津島ポテトマラソンFINAL

大津島地区社会福祉協議会からのお願い

善意銀行への寄付にご協力ください

知っちょるかな

釣り好き、じゃが魚は何処

文川 松本 千恵子



フェリーに乗って町へ出る道すがら、鰯漁の船が二艘網を漕いでいるのを見ることがある。鰯も少なくなり、鰯漁の船もめっきり少なくなっているのは見かけることも珍しい。ふた昔位前には、沖で追われた鰯が慌てて磯に堰（せ）き上がって、それを手掴みで拾う楽しみがあった。また、子供達が小さかった頃、夜波止を散歩していたら、暗い海原の白い砂の所を、大きな赤い頭を持った長いモノが泳いで来た事があった。二晩続けて目撃して、正体不明の生き物かと恐れをなしたが、翌日明るい懐中電灯で照らしてみたら、何と片口鰯の群れで、赤いのはその目が赤かったのだった。これにはその後二度と会えなかったが、夏の夜散歩に出る度、また会えないかと期待して海を眺めたものだった。

その頃はまだ、生ゴミは海に捨てていた時代。それを目当てに魚が磯に寄ってきて、色々な魚がよく釣れた。まだ、小学生の子供達と百均の竹の竿に、父ちゃんのテグスを付けて貰い、針とその刃りで掘ったゴカイを着けて波止の二段から糸を垂らして、釣りをした。その頃はまだまだ魚影は濃くて、キス、メイボ、ギザミなど、子供の腕でもそこそこ釣れた。時には百均の竿が折れる位の、よく太ったアイナメが釣れたりして、子供は大興奮。煮付けにしたり、刺身にしたり新鮮で美味しい魚を当たり前のように食べていた。

最近突然釣りに目覚めた息子が時折釣りに戻ってくる。百均の竿ではなく、リールについた一端の道具で、釣り場は子供の頃と同じ波止の二段。イヤ、釣れん。勿論腕が悪いし、学ぶこともせんなから、普通釣り竿に糸があって餌を着けて海に投げたら釣れる積もりの釣り。魚も賢くなっているのだらう。私達親子には釣れりやあせん。カサゴと茶色のギザミばかり。それでも釣れば嬉しいので、飽きもせず釣り糸を垂れる。何も思わず海を眺めて、釣れるか釣れるかと待つ時間はそれなりに良い時間だ。それでも余りにも釣れないと、「あの頃のあのアイナメは何処に行ったんかね」などと、愚痴が出る。何の苦勞も無く釣れていたあの時代。海を眺めていると、確かに魚影が少なくなっているのを感じる。何より稚魚の群れがない。色々な種類の稚魚が行き交っていた海では無くなっている。今年なんか、鱈さえ釣れないものなめ。夏の余りの暑さに魚達も参っているのかも知れない。生き残るのが難しくなっているのかも知れない。温暖化やマイクロプラスチックの問題で、魚達も生きにくくなっているのかも知れない。そんな事を話しながら、それでもたまに、ケガで釣れるアナゴやコチやアコウなどに気を良くして、飽きもせず釣り糸を垂れる日は続きそうではあるのだけど・・・。

⑩ 天高く〇〇肥ゆる秋

文川 回天記念館 佐伯 孝洋

みなさん、こんにちは。まだまだ暑い日が続いていますが、これを読まれる頃にはどんなでしょうか？

そこで、長期気象情報をググってみました。西日本では平年より高い確率50%のよう、今年の冬は暖冬になりそうとのことです。

しかしながら朝晩は涼しく過ごしやすくなって秋の気配を感じる毎日です。ドライブをしていると道中で稲刈りをされている様子、すすきりとした田んぼ、夕日に輝く畔干しされた稲と秋を感じることが出来ます。

道の駅に寄ってみると収穫された新米、梨、ブドウ、栗といった果物が並んで実りの秋を実感できます。こちらは視覚だけでなく、味覚、食欲の秋になります。

美味しそうに並んだ農産物を見ると思わず手がでて、たくさんの買い物をするようになっています。そうすると「天高く馬肥ゆる秋」の故事成語を思い出しますね。

このことわざをもじって「天高く〇〇肥ゆる秋」にして周り（自分も含めて）を見るとなるほどーと心当たりのある方が多いのではないのでしょうか？くれぐれも大切な相方に対して使用しないでくださいね、口を聞いてもらえなくありませんよ。秋を満喫しましょう。

